

『抽象的』 作…ポチ子

抽象的な言葉で語れば、

特別な人になれた気がした。

内容なんていつも一緒だ。

誰もが感じていて、

皆は不満も漏らさずに頑張っているようなことだ。

それすら我慢できないような、

ただの出来損ないというだけなのに、

誇らしげな顔で文章にする。

大して良くない頭で書く文章は、

自分の中で消化されるだけで、

誰の心にも響かない。

そんな文章に何の意味があるのだ。

伝えようともしていない、

出来損ないの文章を、

誰が見てくれると思っっているんだ。

予想通り、

誰の目にも留まらない文章を見て浮かぶのは、

不満を漏らす私だけだ。